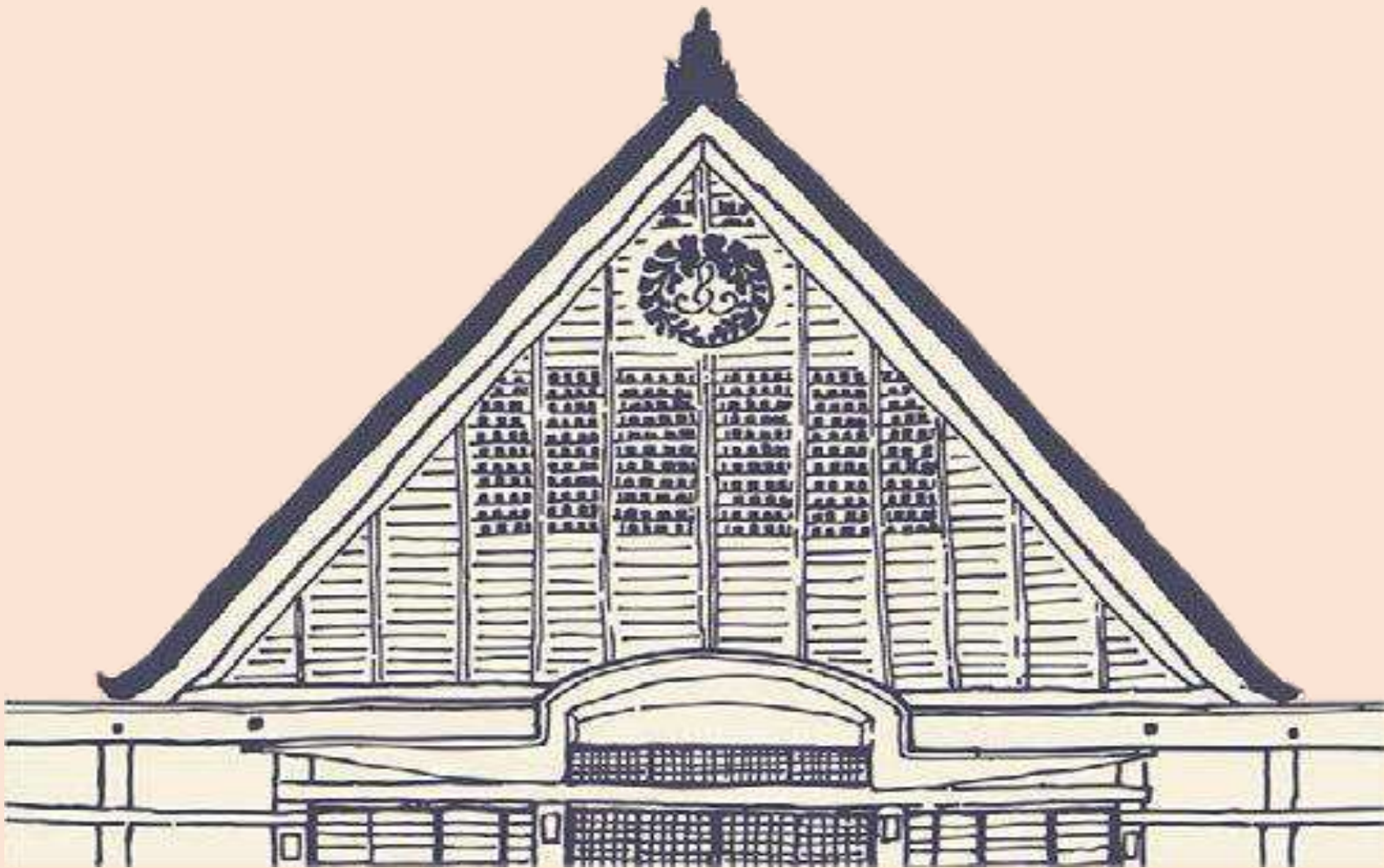


本願寺広島別院・安芸教区

全戦争死没者追悼法要
並びに 原爆忌 80 周年法要



2025 (令和 7) 年 7 月 5 日 (土)

本願寺広島別院 広島市中区寺町 1-19

日 程

12:50 … 中川元慧 法要実行委員長（安芸教区教区会議長）挨拶
園城義孝 浄土真宗本願寺派総長

「戦後 80 年にあたっての平和を願うメッセージ」

13:00 … 記念布教 講師：吉崎哲真さん（佐伯奥組 西法寺住職）

献華（各組代表者）

13:30 … 『阿弥陀経作法 第二種』大谷光淳門主 御親修

<差定>

- 一. 行事鐘
- 一. 三奉請
- 一. 表白
- 一. 仏説阿弥陀経
- 一. 念仏
- 一. 回向

御親教

随行長挨拶

15:00 … 平和へのメッセージ 宗門校生徒代表

崇徳高等学校 横山律斗さん

進徳女子高等学校 大槻華奈さん

被爆体験証言 切明千枝子さん

森下 弘さん

16:20 … 富樫恵生 法要副実行委員長（安芸教区組長会代表）挨拶
（歌）いのちかがやいて

16:30 … 終了

法要をお迎えして



本願寺広島別院輪番
安芸教区教務所長

熊谷正明

本日は暑さ厳しいなか、遠近各地よりご参拝いただき誠に有難うございます。

今年は終戦 80 年、被爆から 80 年を迎えました。この節目の年に、御門主様御親修のもと「本願寺広島別院・安芸教区 全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌 80 周年法要」を勤修いたします。

1945（昭和 20）年 8 月 6 日に一発の原子爆弾がこの広島に投下され、一瞬にして美しい街並みが破壊され、多くの人々が犠牲になりました。戦争という人間の愚行によって、今なお多くの方々が苦しめ続けられているという現実を見るにつけ、戦争の悲惨さ、原子爆弾の非道さを強く感じずにはられません。

本法要の趣旨にもありますように、広島は平和を願う地として、その惨劇を今日まで世界中の人々に語り継いできました。その声は世代を超えて伝えられ、核兵器廃絶運動の大きなうねりとなりました。そしてこのたびの日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル平和賞授与により、戦争の抑止力となるのは「被害者の生の声を聞く」ことを続けるより他はないとあらためて世界に示しました。

しかし、そうした歩みとは反対に、軍勢力による他国に侵攻する行為が世界各地で起こっており、いまだに解決の糸口さえ見つからない混迷を深める状況が続いています。

お釈迦様は『仏説無量寿経』の中で「兵^{ひょう}戈^が無用」（武力も武器も用いる必要が無い）と説かれ、親鸞聖人も「世のなか安^{あん}穩^{のん}なれ」とお示しく下さいました。お釈迦様の時代、親鸞聖人の時代、そして今日、時代は違えども、すべてのいのちの尊さや存在を大切にしよう平和な世のなか、いつまでも続いてほしいという思いは、時代を超えた人類共通の願いではないでしょうか。

終戦 80 年が経ち、当時の戦争を生きてこられた方々も少なくなり、戦争を知らない世代が多くなっている今日、「過ちは繰り返さない」と誓われた先人の方々の思いをしっかりと受けとめ、非戦平和の願いを語り継いでいきながら、これからも共に安心して生活できる社会の実現をめざして歩んでまいりたいと思います。

本願寺広島別院・安芸教区 全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌 80 周年法要 趣旨

世界で初めて広島に原子爆弾が投下されてから 80 年を迎えようとしています。ヒロシマは平和を願う地として、その惨劇を今日まで世界中の人々に語り継いできました。その声は世代を超えて伝えられ、核兵器廃絶運動の大きなうねりとなりました。そしてこの度、これまでのヒバクシャの方々の地道な活動が評価され、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を授与されました。戦争の抑止力となるのは「被害者の生の声を聞く」ことを続けるより他はないとあらためて世界に示しました。

しかし、そうした歩みが蔑ろにされ、軍事力による他国に侵攻する行為がいま世界各地で起こっており、いまだに解決の糸口すら見えない状況となっています。

今こそ私達は「怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む」との釈尊のお言葉を大切に受け止めることが必要です。自国偏重の考えは他国の考えを尊重しない排他的行動となり、それは結局自らを滅ぼす結果となります。爆心地に近い本願寺広島別院は経典「仏説阿弥陀経」にある「共命ぐみょうちやう鳥」をシンボルマークとしています。「他を滅ぼす道は己を滅ぼす道、他を生かす道こそ己の生かされる道」と仏法に聞き、すべてのいのちの尊さや、存在を大切にしよう社会が続くことを強く願っています。

被爆 80 周年を迎える 2025(令和 7)年、本願寺広島別院・安芸教区において、これまでの歩みに加え、更なる非戦・平和への願いを込めて、『全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌 80 周年法要』の勤修と、その関連事業を開催いたします。

「全戦争死没者追悼法要」は、1994(平成 6)年、原爆 50 回忌法要を機に、本願寺広島別院で大切に続けてきた法要です。この法要はわが宗門にとって過去の戦争に協力し、多くの人々を扇動してきた歴史を見つめなおし、平和を願う法要でもありました。

このたび、被爆 80 年を迎え、改めて「過ちは繰り返さない」と誓われた先人の方々の思いや、「世のなか安穏なれ仏法ひろまれ」との宗祖親鸞聖人の願いを胸に、戦争を知らない世代が大半となる社会に、広く非戦平和を訴え、共に安心して生活できる社会の実現をめざして歩んでまいりたいと思います。

戦後 80 年にあたっての平和を願うメッセージ

本年は、戦後 80 年にあたります。まず、先の戦争において、亡くなられた世界のすべての方々に、心からの哀悼の意を表しますとともに、また、戦争で家族を失い、家を失い、さまざまな辛苦を受けられた方々の苦難はいかばかりであったかと拝察いたします。

戦争は、いのちを奪い、いのちの尊厳を踏みにじることを国と国との間で集団的に行うという、人間の愚かさが最も惨^{むご}たらしいかたちで現れる行為です。第二次大戦ではアジア・太平洋で、そして世界の各地で、当時の敵も味方も、戦闘員に限らず多くの市民が犠牲となりました。日本の地でも、沖縄は凄惨^{せいさん}な地上戦を経験し、広島と長崎は原爆によって人もまちも破壊され、また東京や大阪などの都市をはじめ多くのまちも空襲に焼かれました。しながら、その戦争に協力し、戦争を賛美したことも、私たち教団の歴史です。

「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」と親鸞聖人がお示しになられたように、み教えに照らされ知らされてくる私たちのまことの姿は、状況次第でどのような悲惨な行いもなしてしまう可能性を持つ、なんともあさましい姿です。だからこそ、悲惨な行いを導いてしまうような状況を決してつくりだしてはならないのです。

戦後、私たち教団は全戦没者追悼法要をはじめ、さまざまに平和の実現へ取り組んでまいりました。一方で、戦争を経験していない世代が人口のほとんどを占めるようになった今日、戦争がもたらした痛苦の記憶は遠いものとなりつつあります。当時の国や社会の状況を批判することなく、それが正しいことであるかのように取り違えてしまった私たちの歴史を省みて、「念仏のみぞまことにておはします」との親鸞聖人のお言葉をよりどころとして、慚愧^{ざんぎ}の念^{おもい}をいだいて、過去を風化させてはなりません。

私たちは、過去・現在・未来のすべてのいのちは、仏に願われ生かされていることに気づかせていただくのです。過ぎ去った方々を敬い、いまの私たちを大切にし、さらにこれから生まれるいのちに願いを伝えなくてはなりません。

先人たちが語り伝えてくださった、戦争による辛く苦しい体験を無駄にせず、語り継いでいくことができるのが私たちの教団であり、いまもなお、この瞬間さえも世界の各地で行われている戦争や紛争での人々の苦しみや悲しみに思いを寄せ、自らの生きざまに反映し、お念仏申して、次の世代に伝えていくことが、私たちの教団の大切な役割と考えます。

過去を反省し、問い続け、私たちがいま何をなすことができるか、将来の世代に何を残していくかが大切でしょう。戦後 80 年にあたって、平和を願うメッセージといたします。

2025(令和7)年4月14日

浄土真宗本願寺派

総長 園 城 義 孝

未来へ



崇徳高等学校

よこ やま りつ と
横山 律斗

1945（昭和 20）年 8 月、一発の原子爆弾によって多くのいのちが一瞬にしてなくなりました。今年、ヒロシマは、被爆から 80 年の節目を迎えます。

本日の「全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌 80 周年法要」にともない、崇徳高等学校を代表して心より哀悼の意を表します。私の在籍する崇徳学園においても、原爆の被災により校舎が全焼し、生徒・教職員あわせて 522 名の尊いいのちが失われました。私たちと同世代の学生たちの日常が、戦争によって、暗く苦しい日々が変わっていったことを想像すると、胸が痛みます。悲しいことに、現在でもロシアとウクライナの戦争をはじめ、様々な国や地域での争いが絶えません。

先日、私は、平和記念公園を訪れました。幼い頃から頻繁に訪れたことのある場所でしたが、「被爆 80 年」に思いを馳せると、日常の「平和のありがたさ」に気づかされました。また、被爆者の方に学校にお越しいただき、被爆証言を聴かせていただく機会に恵まれました。被爆者の方は、筆舌に尽くしがたい経験を辛い思いをされながら真摯に語ってくださいました。私たちの世代が被爆者の声を直接聞くことができる最後の世代と言われます。平和な世界を実現していくには何が必要か、今こそ一人ひとりが考えなければなりません。私は、80 年前に広島に起こった惨状を直視し、国籍や人種の垣根を越えて、寛容な視野を持ち、人とひととの関係性を丁寧に構築することが必要であると考えます。小さなことであってもお互いを尊重し、喜びを分かち合うことが大切であると思います。

そして、社会で起きている様々な課題を自分事として捉え、想像力を豊かにもち、次世代に向けて、一人でも多くの人に「戦争の記憶」を語り継いでいくこと。すなわち、「あたりまえの日常の尊さ」を伝えていくことがこれからの未来を担う私たちに託されていることであると考えます。

最後に、昨年、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞しました。被爆者のメッセージが世界の人々のもとへ届いたことは大きな希望であると感じます。若者を代表して、私自身が広島で学んだ過去の記憶のバトンを未来へ繋ぎ、これからの平和な社会の実現に向けての歩みを進めていくことを誓い、平和へのメッセージとさせていただきます。

高校生だからできること



進徳女子高等学校

おおつきかな
大槻華奈

アメリカによる原爆投下から80年目。私が通う進徳女子高校は、創立117年という長い歴史の中で、「あの日」に多くの尊い命が犠牲となりました。正門をくぐり、初めに目にするのは、「進徳高等女学校原爆慰霊碑」です。80年経った今でも、慰霊碑には毎朝、献花がされています。裏にある「被爆ソテツ」は、あの日の学校、生徒、先生そしてヒロシマを知りながらも、新しい芽を息吹かせ、今もなお進徳を見守っています。

私が所属する「平和ゼミナール部」のモットーは、「微力ではあるが、無力ではない」。学べば学ぶほど社会の矛盾に怒りや悔しさを感じる一方で、問題のあまりの大きさ、複雑さに「しょうがないじゃん…」と時々諦めそうになる自分がいます。しかし、全国の仲間と共に、考え行動する度に励まされ、「また頑張りたい」と奮い立たされます。

3月、外務省要請に参加しました。「核兵器禁止条約」への批准を求める署名は、約1年で2万2465筆集まり、私はこの署名を提出する大役を担いました。束は、ずっしりと重くこの活動の結晶を無駄には出来ないと強く思いました。唯一の戦争被爆国である日本が世界に対してもっと積極的に、核兵器廃絶に向けリードしてほしいと政府に伝え続けたいです。その後の国会議員さんとの意見交流では、「若者の行動が少しずつ、政府を徐々に揺れ動かしつつある。一緒に声をあげ行動していこう」と声をかけてくださり、平和ゼミナール部のモットーを実感しました。

今、学校のクラブでは、「進徳の歴史」をたどっているところです。5月には、同窓会長の山田郁子さんにお越しいただき、過去に水泳部がインターハイで優勝していたことや、先日放送されたNHKの「ファミリーヒストリー」のお話などを伺いました。私たちの大先輩は、誇りを持って進徳に通われていました。一方で、先生のいない自習時間には私たちと同じように友だちとふざけたり、誕生日をお祝いし合ったり…。学校生活を楽しんでいたのです。6月には、進徳の名物先生であった渡邊弥蔵先生のお孫さんをお招きし、交流会をしました。当時としては珍しい音楽教育に力を入れ、情操教育をととても大切にされていたといえます。師範学校の校長先生と対立し、学校を辞めるときには、「先生を辞めさせるな!」というデモが生徒の中で起こったといえます。多くの生徒から愛され、こんな素敵な先生がいたなんて羨ましくなりました。

そんな歴史を持つ学校で、今、私は学んでいます。希望を持ち学校に通い、一瞬にしてそれを奪われた生徒の無念さ、弥蔵先生の失望は計り知れなかったでしょう。それでも今に繋いでくれた人たちへ恥ずかしくない学びをしたい。8月は世界大会、全国高校生集会、長崎訪問に参加予定です。

「高校生だから」できないのではなく、「高校生だから」できることを仲間とともに考えこれからも行動していきます。

被爆体験証言

きりあけ ち え こ

切明 千枝子 さん

1929(昭和 4)年生まれ。広島県立第二高等女学校 4 年生だった 15 歳の時、病院に向かう途中、爆心地から 1.9 km 離れたところで被爆。広島平和記念資料館の被爆体験証言者として、2019(令和元)年 8 月から活動を開始。



もりした ひろむ

森下 弘 さん

1930(昭和 5)年生まれ。14 歳の時、爆心地から 1.5 km で建物疎開作業中に被爆。広島大学卒業後、高校教諭として勤務。原爆に関する高校生の意識調査や教材作りなど平和教育に取り組み、県高校原爆被爆教職員の会の初代会長も務めた。詩人、書家で退職後は島根大学と広島文教大学で書を教えた。



無兵
用戈



お釈迦様は『仏説無量寿経』の中で「^{ひょうが むよう}兵 戈無用」（武力も武器も
用いる必要が無い）と示されました。このたび「本願寺広島別院・
安芸教区 全戦争死没者追悼法要 並びに 原爆忌 80 周年法要
（7/5）」において被爆体験証言をいただく森下 弘さんにご揮毫
いただきました。（本願寺広島別院本堂に掲示）

※揮毫は安芸教区ホームページよりダウンロードいただけます。



安芸教区ホームページ 



 森下 弘さんプロフィール

本願寺広島別院・安芸教区

全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌 80 周年法要

関連事業

● 共命鳥輪袈裟（夏用）・門徒式章の調製

原爆忌 80 周年の節目にあたり、原爆 50 回忌(1994 年)の折り、共命鳥をデザインした輪袈裟・式章をもとに色地を一新し調製。

● 被爆寺院マップの作製

新田光子さん（広陵東組明教寺衆徒・龍谷大学名誉教授）監修のもと、本願寺派被爆寺院（広島市認定）を対象とした内容のマップリーフレットを作成しています。

完成後（年内完成予定）、電子ブック（PC 版）化し、安芸教区ホームページよりダウンロードいただけます。

● 森下弘さん（書家）による「兵戈無用」の揮毫（データ化）

森下弘さん（被爆体験証言者・詩人・書家）に「兵戈無用」（『仏説無量寿経』）を揮毫いただき、より多くの方に「兵戈無用」の願いが弘まるように、データ化いたしました。

安芸教区ホームページよりダウンロードいただけます。

● 世界遺産「アウシュビッツ強制収容所」見学他世界遺産を巡る研修旅行の実施

日時：2026（令和 8）年 2 月 12 日（木）～17 日（火）6 日間 於：ポーランド共和国

目的：先の世界大戦で深い悲しみと悲慘な状況を生んだアウシュビッツ強制収容所を見学し、被爆地ヒロシマで伝わる戦争体験とは違う角度から、あらためて戦争の悲慘さを学ぶと共に、他世界遺産を巡る研修旅行を計画しています。



2025（令和7）年度 終戦80年に際しての 安芸教区・本願寺広島別院の取組

① 安芸教区保護司会結成25周年記念大会〈豊耳会仏教講座〉

日時：4月9日（水）14:00～16:30 於：広島別院

アトラクションにて「被爆ピアノコンサート」を開催

ピアノ：谷崎友美さん（真宗大谷派教徳寺門徒）

ソプラノ：大島久美子さん（沼田組光明寺門徒） 被爆ピアノ・（株）矢川ピアノ工房

② 安芸教区布教団 前期研修会

日時：5月29日（木）13:30～

講師：武田龍精さん（龍谷大学名誉教授）

講題：「地球上からの全核兵器廃絶の精神と実践～日本被団協ノーベル平和賞受賞の歴史的意義～」

③ 安芸教区門徒推進員連絡協議会 前期研修会

日時：5月31日（土）15:00～16:00 於：広島別院

講師：箕牧智之さん（日本原水爆被害者団体協議会代表委員・

広島県原爆被害者団体協議会理事長・山県中組明覚寺総代）

講題：被爆証言とノーベル平和賞

④ 安芸教区 総講習会（2日目）

日時：6月6日（金） 於：広島別院

(1) 講師：近藤俊太郎さん（本願寺資料研究所研究員・龍谷大学非常勤講師・

龍谷大学世界仏教文化研究センター客員研究員・中央仏教学院通信教育部講師）

講題：「戦争への道、平和への歩みー近代真宗史を学び直すー」

(2) 講師：鈴木達治郎さん（長崎大学客員教授・NPO法人ピースデポ代表）

講題：「核の脅威に抗う：核廃絶への現実的アプローチ」

(3) 講師：森瀧春子さん（核兵器廃絶をめざすヒロシマの会共同代表・

世界各被害者フォーラム共同代表・ウラン兵器禁止を求める国際連合運営委員）

講題：「核を否定しない限り人間は核に否定される～核と人類は共存できない～」

⑤ ビハーラ安芸 いのちをみつめる研修会

日時：6月25日（水）13:30～15:30 於：広島別院

講師：叶裕子さん（広陵東組明教寺衆徒・本願寺派布教使・

「御同朋の社会をめざす運動」安芸教区委員会人権平和部会）

講題：「戦後を生き続けるーヒロシマが遺した字引きをひいてー」

⑥ 青少年国際研修団 平和学習

日時：7月3日（木）15:50～17:30 於：広島別院

被爆体験証言：箕牧智之さん(日本原水爆被害者団体協議会代表委員・

広島県原爆被害者団体協議会理事長・山県中組明覚寺総代)

⑦ 本願寺広島別院・安芸教区

全戦争死没者追悼法要 並びに 原爆忌 80 周年法要

日時：7月5日（土）12:50～16:30 於：広島別院

記念布教：吉崎哲真さん(佐伯奥組西法寺住職)

法要：御門主様御親修『阿弥陀経作法 第二種』

平和へのメッセージ：宗門校生徒代表

(崇徳高等学校・横山律斗さん、進徳女子高等学校・大槻華奈さん)

被爆体験証言：森下弘さん、切明千枝子さん

⑧ 浄土真宗本願寺派仏教青年連盟中央委員法要参拝

日時：7月5日（土）12:50～16:30 於：広島別院

本願寺広島別院・安芸教区 全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌 80 周年法要への参拝

⑨ 広島市立基町高校生徒と被爆体験証言者との共同制作による

「原爆の絵」の展示

日時：7月5日（土）～7月20日（日） 於：広島別院

被爆体験証言者の記憶に残る被爆時の光景を広島市立基町高等学校の生徒が描いた「原爆の絵」があります。これは広島平和記念資料館の取組で、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画に残すこと、そして、絵の制作を通して高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的に行われているものです。この「原爆の絵」（レプリカ）を展示します。

⑩ 本願寺広島別院「原爆忌法要」

日時：8月5日（火）～6日（水） 於：広島別院

法要：5日逮夜『無量寿経作法』、6日晨朝『般若讃』、6日日中『阿弥陀経作法 第二種』

法話：安部恵証さん(備後教区三次組善照寺住職)

⑪ 龍谷大学留学生平和プログラム

日時：8月8日（金）～9日（土） 於：広島別院・広島市内

内容：龍谷大学で学ぶ留学生を広島に招き、被爆地ヒロシマからの非戦・平和への願いを、各国・地域へ伝達いただくことを目的として実施。

⑫ 豊耳会仏教講座

日時：8月10日（日）13:30～ 於：広島別院

講師：桂春蝶さん（嘶家）

講題：『ニライカナイで逢いましょう～ひめゆり学徒隊秘抄録～』

⑬ 2025 ピースナイター参加

日時：8月13日（水） 於：マツダスタジアム

内容：来場の子ども・若者を中心としたすべての年代の方々に「PEACE おりがみ」で折鶴を作成いただき「非戦・平和」への願いを発信。作成いただいた折鶴は取りまとめて糸を通し、後日、広島平和記念公園にお持ちします。

⑭ 寺族婦人連盟前期研修会

日時：9月1日（月）13:30～

講師：志賀賢治さん（広島平和記念資料館元館長・広島大学原爆放射線医科学研究所客員教授）

テーマ：「原爆がもたらしたもの、奪いさったもの－『記憶の博物館』の軌跡と課題－」

⑮ 平和の鐘

日時：9月18日（木）13:30～13:35 於：広島別院

内容：東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑での「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」修行にあたり、平和宣言を行い「平和の鐘」を撞かれる際、同時刻に梵鐘を撞く。

⑯ 豊耳会仏教講座

日時：2月14日（土）13:30～

講師：西本照真さん（武蔵野大学前学長）

講題：『仏教と幸福学～被爆80年にあたって～』



平和シンポジウム「平和を願う念仏者のつどい」のあゆみ

安芸教区では、1983（昭和58）年より、世界に向けた平和の発信として平和シンポジウムを開催してきました。

1994（平成6）年の「全戦没者追悼法要・原爆50回忌法要 本願寺広島別院復興30周年記念法要」を機に、かつて広島護国神社境内において勤めてきた「戦没者追悼大法要」を自己自身の信仰問題としてとらえ直し、広島護国神社・広島戦没者慰霊祭委員会・安芸教区の三者による話し合いを経て、「全戦没者追悼法要（全戦争死没者追悼法要）」として、本願寺広島別院において厳修することになりました。それに伴い、以降は「平和を願う念仏者の集い」という法要と一体となった平和プログラムとなり、宗門校・龍谷大学への留学生などを迎えて開催されています。

回	開催日	テーマ	講師（敬称略）
第1回	1983（昭和58）年 7月9日	核兵器廃絶へ向けて	山本仏骨（伝道院長） 福島寛隆（龍谷大学教授） 波佐間正己（山口教区正隆寺住職） 横山真佳（大阪毎日新聞学芸部副部長）
第2回	1984（昭和59）年 9月8日	核兵器廃絶へ向けて	二葉憲香（京都女子学園々長） 今堀誠二（広島女子大学々長） 西光義敬（龍谷大学教授） 古川博（中国新聞報道部）
第3回	1985（昭和60）年 8月5日	人間として、念仏者として生きるために ～人類の生存こそ至上目的～	豊田利幸（名古屋大学名誉教授・現明治学院大学教授）
第4回	1986（昭和61）年 10月11日	私はなぜいま 念仏者なのか	ジョウドウ・アンドレ・シェベリエ（スイス念仏庵々主）
第5回	1987（昭和62）年 7月26日	ヨーロッパの念仏者として世界平和を考える	アドリアン・ペール（ベルギー慈光寺住職）
第6回	1988（昭和63）年 10月29日	真の平和を求めて～歩みと願い～	森瀧市郎（広島大学名誉教授）

第7回	1989 (平成元) 年 7月8日	マレーシアの住民虐殺を考える	林博史 (関東学院大学助教授)
第8回	1990 (平成2) 年 10月6日	今、改めて戦争の悲惨さを見つめる ～朝鮮半島編～	高史明 (作家) 李実根 (広島県朝鮮人被爆者協議会会長) 豊永恵三郎 (「韓国の原爆被害を救援する市民の会」常任世話人) 光寺重信 (教区平和委員)
第9回	1991 (平成3) 年 10月19日	今、改めて戦争の悲惨さを見つめる ～中国 (南京大虐殺を中心に) 編～	藤原彰 (元一橋大学教授) 久堀弘義 (仏婦総連盟講師)
第10回	1992 (平成4) 年 10月31日	今、改めて戦争の悲惨さを見つめる ～沖縄編～	大田英雄 (広島県立井口高校校長) 宮良ルリ (「ひめゆり学徒隊」生存者) 桐山六字 (浄土真宗教学研究所助教授)
第11回	1993 (平成5) 年 10月23日	今、改めて戦争の悲惨さを見つめる ～50回忌を前に～	松田正典 (広島大学教授) 愈ヨン子 (市川親鸞塾・塾生)
第12回	1995 (平成7) 年 3月3日	スミソニアン原爆展論争を生かす道	岡本三夫 (広島修道大学法学部教授)
第13回	1995 (平成7) 年 11月1日	浄土真宗の戦争責任～戦没者遺族の心情と反靖国～ 安芸教区の歩んできたこと	菱木政晴 (西山短期大学助教授) 光寺重信 (教区平和部会委員・沼田組光隆寺住職)
第14回	1996 (平成8) 年 10月12日	人びとのアジア	中村尚司 (龍谷大学経済学部教授)
第15回	1997 (平成9) 年 6月28日	未臨界実験とCTBT調印後の核世界 世の中安穏なれ 仏法弘まれー非核・非戦ー	中達啓示 (広島大学国際協力研究科助教授・歴史学博士) 寺川俊昭 (元大谷大学学長・比婆郡西城町西願寺住職)
第16回	1998 (平成10) 年 10月17日	チェルノブイリ事故に見る環境問題 国境を超える支援のあり方 ー北朝鮮食糧支援に参加してー	河野近子 (基幹運動本部専門委員・大分教区速見組忠専寺) 海老根勲 (中国新聞解説委員) 友国義信 (食糧支援の会事務局長・広陵東組善徳寺住職)
第17回	1999 (平成11) 年 10月2日	語り継ぐヒロシマ 希望のヒロシマ	原廣司 (ヒロシマを語る会代表) 平岡敬 (前広島市長)

第18回	2000（平成12）年 9月30日	中国残留婦人舞台劇「再会」を通して	渡辺義治（劇団「IMAGINE21」主宰）
第19回	2001（平成13）年 9月29日	海をこえて響くお念仏	張偉（同朋大学講師）
第20回	2002（平成14）年 9月28日	平和をつくる －ヒロシマからアジア－	平岡敬（前広島市長）
第21回	2003（平成15）年 9月27日	国際医療協力の19年 －アフガニスタンの現状と課題－	福元満治（ペシワール会広報担当理事）
第22回	2004（平成16）年 10月2日	人間はなぜ戦争をするのか	野田正彰（関西学院大学教授・精神科医）
第23回	2005（平成17）年 7月8日・9日	平和への提言	【提言者】 8日：夏明忠幸、加良幸枝、土井克彦、濱本信太郎 9日：福岡駿吉、戸井貴三枝、大江厚子、青木一世
第24回	2006（平成18）年 7月8日	平和：根源からの問いかけ	町田宗鳳（広島大学大学院総合科学研究所教授）
第25回	2007（平成19）年 7月7日	被爆体験から ～みんなが救われるとき、自分も救われる～	森下弘（ワールド・フレンドシップ・センター理事長）
第26回	2008（平成20）年 7月5日	沖縄戦をめぐる心の葛藤 －亡父はひめゆり学徒隊長だった－	松永英美
第27回	2009（平成21）年 7月4日	私の被爆体験と平和について	高橋昭博（元広島平和記念資料館館長）
第28回	2010（平成22）年 7月3日	〈ヒロシマ〉を記憶するために	直野章子（九州大学比較社会文化研究院准教授）
第29回	2011（平成23）年 7月2日	ヒロシマの真実 ～爆心地復元をして～	田邊雅章（爆心地復元映像製作委員会代表）

第30回	2012 (平成24) 年 7月7日	国際平和と人間の安全は両立するのか ー 平和論の再考をー	吉川元 (上智大学グローバル・スタディーズ 研究科教授)
第31回	2013 (平成25) 年 7月6日	ボランティアガイドを通してみてきたもの	三登浩成 (平和公園ボランティアガイド)
第32回	2014 (平成26) 年 7月5日	震災から3年…今 ～30km圏外の原子力災害～	杉岡誠 (福島県飯館村役場職員・東北教区相馬組善仁寺住職)
第33回	2015 (平成27) 年 6月27日	知られざるヒロシマの真実と原爆の実態	田邊雅章 (映像作家)
第34回	2016 (平成28) 年 7月2日	非戦平和をどこまで願っていますか？	ステイブ・リーパー (広島女学院大学客員教授・広島平和文化センター前理事長)
第35回	2017 (平成29) 年 7月1日	被爆した米兵を通して平和を考える	森重昭 (歴史研究家)
第36回	2018 (平成30) 年	* 「平成30年7月豪雨」のため中止	
第37回	2019 (令和元) 年 7月6日	記憶の継承 ～広島平和記念資料館の軌跡と課題～	志賀賢治 (広島平和記念資料館前館長)
第38回	2020 (令和2) 年	* 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
第39回	2021 (令和3) 年	* 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
第40回	2022 (令和4) 年 7月2日	大久野島の毒ガスの歴史	山内正之 (大久野島から平和と環境を考える会代表・毒ガス島歴史研究所事務局長)
第41回	2023 (令和5) 年 7月1日	わたしの被爆体験	篠田恵 (被爆体験証言者)
第42回	2024 (令和6) 年 7月6日	被爆体験証言	才木幹夫 (被爆体験証言者)
第43回	2025 (令和7) 年 7月5日	被爆体験証言	切明千枝子 (被爆体験証言者) 森下弘 (被爆体験証言者)

三奉請

奉請彌陀如來 入道場 散華樂

奉請釋迦如來 入道場 散華樂

奉請十方如來 入道場 散華樂

仏説阿弥陀經

如是我聞一時仏在舍衛國祇樹給孤独園

与大比丘衆千二百五十人俱皆是大小羅

漢衆所知長老舍利弗摩訶目犍連摩訶

迦葉摩訶迦旃延摩訶俱絺羅離婆多周利

槃陀伽難陀阿難陀羅睺羅憍梵波提賓頭

盧頗羅墮迦留陀夷摩訶劫賓那薄拘羅阿

菟樓駄如是等諸大弟子并諸菩薩摩訶薩

文殊師利法王子阿逸多菩薩乾陀訶提菩

薩常精進菩薩与如是等諸大菩薩及釈提

桓因等無量諸天大衆俱

爾時仏告長老舍利弗從是西方過十萬億

仏土有世界名曰極樂其土有仏号阿弥陀

今現在説法舍利弗彼土何故名爲極樂其

國衆生無有衆苦但受諸樂故名極樂

又舍利弗極樂國土七重欄楯七重羅網七

重行樹皆是四宝周匝圍繞是故彼國名曰

極樂

又舍利弗極樂國土有七宝池八功德水充

滿其中池底純以金沙布地四辺階道金銀

瑠璃玻瓈合成上有樓閣亦以金銀瑠璃玻

瓔磤磤赤珠碼碯而嚴飾之池中蓮華大如

車輪青色青光黃色黃光赤色赤光白色白

光・微妙・香・潔・舍利弗・極樂・國・土・成就・如是・功德・莊嚴。

又・舍利弗・彼・佉國・土・常・作・天・樂・黃・金・為・地・晝・夜・六・時・而・雨・曼・陀・羅・華・其・國・衆・生・常・以・清・旦・各・以・衣・祴・盛・衆・妙・華・供・養・他・方・十・萬・億・佉・即・以・食・時・還・到・本・國・飯・食・經・行・舍・利・弗・極・樂・國・土・成・就・如・是・功・德・莊・嚴。

復・次・舍・利・弗・彼・國・常・有・種・種・奇・妙・雜・色・之・鳥・白・鵠・孔・雀・鸚・鵡・舍・利・迦・陵・頻・伽・共・命・之・鳥・是・諸・衆・鳥・晝・夜・六・時・出・和・雅・音・其・音・演・暢・五・根・五・力・七・菩・提・分・八・聖・道・分・如・是・等・法・其・土・衆・生・聞・是・音・已・皆・悉・念・佉・念・法・念・僧・舍・利・弗・汝・勿・謂・此・鳥・實・是・罪・報・所・生・所・以・者・何・彼・佉・國・土・無・三・惡・趣・舍・利・弗・其・佉・國・土・尚・無・三・惡・道・之・名・何・況・有・實・是・諸・衆・鳥・皆・是・阿・彌・陀・佉・欲・令・法・音・宣・流・變・化・所・作・舍・利・弗・彼・佉・國・土・微

風・吹・動・諸・寶・行・樹・及・寶・羅・網・出・微・妙・音・譬・如・百・千・種・衆・同・時・俱・作・聞・是・音・者・皆・自・然・生・念・佉・念・法・念・僧・之・心・舍・利・弗・其・佉・國・土・成・就・如・是・功・德・莊・嚴。

● 舍・利・弗・於・汝・意・云・何・彼・佉・何・故・号・阿・彌・陀・舍・利・弗・彼・佉・光・明・無・量・照・十・方・國・無・所・障・礙・是・故・号・為・阿・彌・陀・又・舍・利・弗・彼・佉・壽・命・及・其・人・民・無・量・無・邊・阿・僧・祇・劫・故・名・阿・彌・陀・舍・利・弗・阿・彌・陀・佉・成・佉・已・來・於・今・十・劫・又・舍・利・弗・彼・佉・有・無・量・無・邊・聲・聞・弟・子・皆・阿・羅・漢・非・是・算・數・之・所・能・知・諸・菩・薩・衆・亦・復・如・是・舍・利・弗・彼・佉・國・土・成・就・如・是・功・德・莊・嚴。

又・舍・利・弗・極・樂・國・土・衆・生・生・者・皆・是・阿・鞞・跋・致・其・中・多・有・一・生・補・處・其・數・甚・多・非・是・算・數・所・能・知・之・但・可・以・無・量・無・邊・阿・僧・祇・劫・說・舍・利・弗・衆・生・聞・者・應・當・發・願・願・生・彼・國・所・以・者

何得与如是。諸上善人。俱會一處。舍利弗。不可少善根。福德。因緣。得生彼國。

舍利弗。若有善男子。善女人。聞說阿彌陀佛。

執持名號。若一日。若二日。若三日。若四日。若

五日。若六日。若七日。一心不乱。其人臨命終

時。阿彌陀佛。與諸聖衆。現在其前。是人終時。

心不顛倒。即得往生。阿彌陀佛。極樂國土。舍

利弗。我見是利。故說此言。若有衆生。聞是說

者。應當發願。生彼國土。

舍利弗。如我今者。讚歎阿彌陀佛。不可思議

功德。東方亦有。阿閼鞞佛。須彌相。大須彌

佛。須彌光。妙音佛。如是等。恒河沙數。諸佛。

各於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。

說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚。不可思議

功德。一切諸佛。所護念經。

舍利弗。南方世界。有日月燈佛。名聞光佛。大

焰肩佛。須彌燈佛。無量精進佛。如是等。恒河

沙數。諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧覆三千

大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚。

不可思議功德。一切諸佛。所護念經。

舍利弗。西方世界。有無量壽佛。無量相。無

量幢佛。大光佛。大明佛。宝相佛。淨光佛。如是

等。恒河沙數。諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧

覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信

是稱讚。不可思議功德。一切諸佛。所護念經。

舍利弗。北方世界。有焰肩佛。最勝音佛。難沮

佛。日生佛。網明佛。如是等。恒河沙數。諸佛。各

於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說

誠實言。汝等衆生。當信是稱讚。不可思議功

德。一切諸佛。所護念經。

舍利弗。下方世界。有師子佛。名聞佛。名光佛。

達摩佛。法幢佛。持法佛。如是等。恒河沙數。諸

仏・各・於・其・国・出・広・長・舌・相・徧・覆・三・千・大・千・世
界・説・誠・実・言・汝・等・衆・生・当・信・是・称・讃・不・可・思
議・功・徳・一・切・諸・仏・所・護・念・經・

舎・利・弗・上・方・世・界・有・梵・音・仏・宿・王・仏・香・上・仏・

香・光・仏・大・焰・肩・仏・雜・色・宝・華・嚴・身・仏・娑・羅・樹・

王・仏・宝・華・徳・仏・見・一・切・義・仏・如・須・弥・山・仏・如・

是・等・恒・河・沙・数・諸・仏・各・於・其・国・出・広・長・舌・相・

徧・覆・三・千・大・千・世・界・説・誠・実・言・汝・等・衆・生・当・

信・是・称・讃・不・可・思・議・功・徳・一・切・諸・仏・所・護・念・

經・

舎・利・弗・於・汝・意・云・何・何・故・名・為・一・切・諸・仏・所・

護・念・經・舎・利・弗・若・有・善・男・子・善・女・人・聞・是・諸・

仏・所・説・名・及・經・名・者・是・諸・善・男・子・善・女・人・皆・

為・一・切・諸・仏・共・所・護・念・皆・得・不・退・転・於・阿・耨・

多・羅・三・藐・三・菩・提・是・故・舎・利・弗・汝・等・皆・當・信・

受・我・語・及・諸・仏・所・説・舎・利・弗・若・有・人・已・發・願・

今・發・願・當・發・願・欲・生・阿・弥・陀・仏・国・者・是・諸・人
等・皆・得・不・退・転・於・阿・耨・多・羅・三・藐・三・菩・提・於・
彼・国・土・若・已・生・若・今・生・若・當・生・是・故・舎・利・弗・
諸・善・男・子・善・女・人・若・有・信・者・應・當・發・願・生・彼・
国・土・

舎・利・弗・如・我・今・者・称・讃・諸・仏・不・可・思・議・功・徳・

彼・諸・仏・等・亦・称・説・我・不・可・思・議・功・徳・而・作・是・

言・釈・迦・牟・尼・仏・能・為・甚・難・希・有・之・事・能・於・娑・

婆・国・土・五・濁・惡・世・劫・濁・見・濁・煩・惱・濁・衆・生・濁・

命・濁・中・得・阿・耨・多・羅・三・藐・三・菩・提・為・諸・衆・生・

説・是・一・切・世・間・難・信・之・法・舎・利・弗・當・知・我・於・

五・濁・惡・世・行・此・難・事・得・阿・耨・多・羅・三・藐・三・菩・

提・為・一・切・世・間・説・此・難・信・之・法・是・為・甚・難・仏・

説・此・經・已・舎・利・弗・及・諸・比・丘・一・切・世・間・天・人・

阿・修・羅・等・聞・仏・所・説・歡・喜・信・受・作・礼・而・去・

仏・説・阿・弥・陀・經・

念仏

宣 阿 一 宣 彌 一 宣 陀 一 宣 佛	宣 阿 一 商 彌 一 商 陀 一 角 佛	羽 阿 一 羽 彌 一 羽 陀 一 羽 佛	宣 阿 一 宣 彌 一 羽 陀 一 羽 佛	宣 阿 一 商 彌 一 商 陀 一 角 佛	羽 阿 一 羽 彌 一 羽 陀 一 羽 佛
	角 阿 一 角 彌 一 角 陀 一 角 佛		角 阿 一 角 彌 一 角 陀 一 角 佛		同音 阿 一 同音 彌 一 同音 陀 一 同音 佛

回向

角 同 一 角 發 一 角 菩 一 角 提 一 角 心	宣 願 一 宣 以 一 宣 此 一 宣 功 一 宣 德	同音 平 一 同音 等 一 同音 施 一 同音 切
宣 同 一 宣 發 一 宣 菩 一 宣 提 一 宣 心	宣 願 一 宣 以 一 宣 此 一 宣 功 一 宣 德	宣 平 一 宣 等 一 宣 施 一 宣 切

いのちかがやいて

石本美由起 作詞
あきたかし 作曲
歌・南一誠

一、
ひと 人には ひとの 命あり
はな 花には 花の 命あり
いのち
うまれて生きて 人はみな
めぐみ 恵を願う 共命鳥
かがや 輝きあおう やさしく強く
かがや 輝きあおう いつの日も
いのち 命と花を いつくしみ

二、
ひと 人には ひとの 涙あり
なみだ
かわ 川には 川の 涙あり
なみだ
おか 犯した罪の 過ちを
あやま
かな 悲しみ唄う 共命鳥
うた
かがや 輝きあおう 憎しみ越えて
にこ
かがや 輝きあおう 諸共に
もろとも
なみだ 涙の歴史 映す川
れきし
うつつ かわ

三、
ひと 人には ひとの 希みあり
のぞ
そら 空には 空の 希みあり
のぞ
あしたへ託す 夢を追い
たく
は 羽ばたけ愛の 共命鳥
あい
かがや 輝きあおう 命の限り
いのち
かがや 輝きあおう 手を取って
て
へいわ 平和の道の 同朋となり
みち
とも

「いのちかがやいて」について

この作品は、一九九四（平成六）年七月一日、広島グリーンアリーナで勤められた「全戦没者追悼法要・原爆五十回忌法要・本願寺広島別院復興三十周年記念法要『かがやきあういのち』の集い」で発表されました。

作品は、安芸門徒である広島出身の作詞家 石本美由起さんに作詞を依頼、同じく広島在住の作曲家 あきたかしの作曲により実現したものです。

当日、小町昭さんの指揮によるオーケストラ伴奏で南一誠さんが歌い、好評を得ました。

以後、仏教音楽研究所の機関誌で全国へ紹介され、平成九年の秋の法要では、「御堂演奏会」の指定曲となり、本山の阿弥陀堂で演奏されるなど支持をいただいてきました。

テープ、CD化の要望に応え、浄土真宗本願寺派安芸教区の組長、教区会議員のみなさんの献身により実現しました。

経文を掲載しておりますので、大切にお取り扱いください。